

UTMは研究拠点大学に認定された。従って、MJITも研究を重視した政策がとられ、教員も研究7割、教育3割の割合で従事しなければならない。年末には年間の実績を自己申告し、その割合に従って教員評価を受けることになる。

MJITの教員及び学生数を表2に示す。2011年は実績数であり、

2012年以降は計画数である。日本人教員は現在9名であるが、2015年には41名が計画されている。これらの教員はコンソーシアム大学からの推薦によって派遣されている。現在の学部生はESE 33名、MPE 32名の計65名であるが、9月には新入生109名、編入生12名の計121名が新しく加わる。なお、現在の大学院生数は63名である。

表1 iKohza

講座名	講座名
1. Ecological Engineering	6. Tribology & Precision Machining
2. Air Resources	7. Vehicle System Engineering
3. Intelligent Dynamics System	8. Centre for Lipids Engineering Applied Research (CLEAR) (UTMに属し、協力講座)
4. Communication System & Networks	9. Centre for Artificial Intelligence&Robotics (CAIRO) (UTMに属し、協力講座)
5. Advanced Devices and Materials Engineering	

表2 教員及び学生数の推移(計画)

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
教員数	37(4)	80(16)	151(32)	221(38)	259(41)	275(25)	279(20)
学部生	65	270	510	750	900	960	960
大学院生	47	135	690	950	1200	1450	1450

### 3. MJITの特徴

MJITは日本の新しい教育支援の形態であり、今後のODAのモデルケースであると言われている。日本型の教育を現地教育と融合させ、発展的な教育を実施し、マレーシアにとって必要な人材育成を図り、国家の発展に貢献するというものである。以下に展開しているMJITの特徴を述べる。

(1)教育では、卒業時の到達目標を設定し、それを達成するカリキュラムを含む教育全体をデザイン、作成、文書化する学習成果基盤型教育いわゆるOBEに基づいた教育を実施し、基礎力、応用力、実践力を身につけることができる。

(2)研究では、「iKohza」という制度を導入し、先輩-後輩のつながりを重視する中で、研究を行い、問題発見解決能力を身につけることができる。特に、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）と改善というコンセプトを取り入れ、チームワーク、責任感、対処能力を養うことができる。

(3)カリキュラムにおける、「人間力プログラム」により人間にとって必要とする自信、決断、自立、協調性、リーダーシップ等の能力開発を促進し、インターンシップによる体験を通して日本的な労働文化を育み、人間力を高めることができる。

(4)全体として知、情、意を取り入れた教育が実施され、国際性豊かな、有能な人材が育成される。

### 4. 終りに

当初MJITは独立した大学としてスタートするはずであったが、諸般の事情によりUTMの1つの学部組織として開学した。事実上の開校は2011年9月であったが、2012年6月1日にマレーシアからナジブ首相、日本から鳩山由紀夫元首相を迎えて開校式が盛大に行われた。ナジブ首相は、MJITは東方政策の集大成であり、マレーシアにとって有能な人材を育成し、将来、マレーシアの教育・研究をリードしてくれることを期待していると述べた。派遣された教員として、責任の重大さを痛感し、今後目標を達成すべく最善の努力を尽くすことを誓った次第である。

MJITは日本からの留学生も歓迎している。欧米に留学せずとも経済的にも安く、研究開発力、実践力や国際力等を培うことができる。多くの高校生がチャレンジしてくれることを期待してやまない。



UTM国際キャンパスにあるMJIT校舎  
2、3階は事務及び教学関係部署（正面向かって左側）、  
4、5階は教員室、6階以上はiKohza研究・実験室。  
正面向かって右側2階から10階は教室及びiKohza用  
研究・実験室



UTMキャンパスにあるモスク  
KLには数キロ毎にモスクがあり、一際高い2つの塔の上  
にはスピーカーが4個ついており、アザーンが流れる。  
尚、塔の間に、ツインタワー、手前の塔の右側にKLタワー  
が見える。